

## 交流会議

司会（総社市総務部長 飯谷 貴一）

失礼いたします。

先ほど9時半と申し上げましたが、皆さんおそろいでございますので、始めさせていただきます。

まずは、皆さんおはようございます。

昨日は、雪舟サミット第1日目の各行事に御参加いただきまして、まことにありがとうございました。お疲れのことと存じますが、本日もどうぞよろしく願いをいたします。

大変申しおくれでしたが、本日の総合司会をやらせていただきます総社市の総務部長の飯谷でございます。よろしく願いをいたします。

まず初めに、本日の日程について御紹介をさせていただきます。

この後、交流会議をお願いいたしておりますが、交流会議が終わりましたら、この正面のステージ、これをバックにいたしまして記念撮影をお願いいたします。記念写真の方は、まず前列に市長さん、区長さん、町長さん、前列にお座りいただきまして、その後へ参加者全員でお願いをしたいと、かように思っております。

そして、記念写真の撮影が終わりましたら、この福祉センターの1階の玄関でバスが待っておりますので、御乗車をお願いいたします。そして、備中国分寺、雪舟生誕の地等を見させていただきまして、途中、宝福寺の近くの般若院というお寺さんがございますが、こちらで昼食をしていただきます。その後、宝福寺の小鍛冶住職さんに御案内をいただきまして宝職寺を拝観していただきたいと存じます。

そういたしまして、13時40分ごろ総社駅まで送らせていただきます。なお、市役所の方が御都合のいい方につきましてはそのまま乗車しておいてくだされば結構でございます。

それでは、御案内をいたしております交流会議に入らせていただきますが、ここでお諮りをいたします。

交流会議の進行役でございます議長には、総社市の本行市長を議長とすることで御異議ないでございましょうか。お諮りいたします。（拍手）

ありがとうございました。

それでは、本行市長、どうぞ議長席へお願いいたします。

後の交流会議の進行につきましては議長の方で進めさせていただきます。よろしく願いいたします。（拍手）

議長（総社市長 本行 節夫）

皆さんおはようございます。

昨日は大変お疲れでございました。長時間にわたります会議でございまして、お疲れのところを今日また第2日目を御厄介になるわけでありませんが、今日のお手元にお配りしておりますように、新聞各社、そしてテレビも報道していただきましたし、ある社につきま

してはカラー写真で報道していただいたわけでございます。多くの方々が関心をお寄せいただいておりますし、昨日も申しましたように、参会者の中から、「よかった、よく勉強できた」というふうなことの声もちらほらしたところでございます。

そこで、今日は本番でございますが、交流会議をこれから開かせていただきます。ひとつざっくばらんにお願ひできたらなと、こんなふうにも思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまから交流会議を開かせていただきます。

資料の14ページをお開きいただきたいと思ひます。

まず、テーマとしまして「雪舟を核にしたまちづくり、人づくり」につきまして、それぞれのところで8分間程度御発表をいただきたいと思ひます。なお、雪舟について特に取り上げるものが、少ないとか無いとかというふうなところにつきましては、市政の概要につきまして御発表をいただければと、このように思ひます。

まず、各地域からの報告、大分市さんからお願ひをいたします。もうお座りのまま。

長谷目源太（大分市助役）

本当に総社市長さんが言われたとおりで、私どもも目からうろこが落ちるような雪舟感と申しますか、そういう気持ちでいっぱいでございます。私自身、これはもう個人的に感じたことであるかもしれませんが、雪舟が豊後に参りましたその要因と申しますか、背景にしましても、戦乱を避けて豊後の大友氏を頼ってきた。雪舟がみえたときには大友は治政が続いておりました、割合平和な時代であったのです。芸術活動は、世の中が安定し、平和な状態の時代にこそ芽生え、発展します。例えばスペインのピカソにしましても、あるいはチェコのパブロ・カルザスにしましても、ファシズムとの戦いと申しますか、そういったことで、スペイン戦争を避けて外国に出ていったということです。つまり、芸術・文化というものは絶対に平和でなければいけない。主体性のある平和が維持されていなければ芸術・文化というものはその営みが成り立ち得ないものであるということをお感じいただけておまして、今現に見ましても、湾岸問題とかいろいろありますが、これは非常に遠方の迂遠の話ではなくて、やはり雪舟を考えるとということにも直結して平和の問題を私どもは自分自身の問題としても考えて行かなければならないと考える次第です。

それから、雪舟を核にした大分のまちづくりということでございますけれども、非常に具体的になりますが、雪舟が天開図画楼を営んだと思える場所、そこから遠くない場所に、私どもの大分市では今5万㎡の用地を確保しまして、大体1万2,000㎡ぐらいの規模の市立美術館を建てることになりまして、もう設計直前ということになっております。現実的に雪舟が何年間か住まれたところに市立美術館ができる、上野丘という所でございますけれども、まさに天開図画楼のところでありまして、こういったところに市立美術館ができているということは大変意義があると、私どもも大分市民改めて雪舟と市立美術館をダブらせて地域の芸術、文化活動の推進ということにまた決意を新たにして取り組まなければならないし、取り組む大きな支えとして、この雪舟というものが寄与し得るという

ことを昨日、今日確信をいたしておるところです。

大分、豊前、豊後の地には豊後南画の伝統、傾向というものがございまして、田能村竹田、田能村直入、帆足杏雨、高橋草坪、そしてさらには福田平八郎、それから現役の作家としましては高山辰雄、日田の出身の京都府にお住まいの岩沢さん。こういうふうには日本画、南画の系統がきちんと豊後には残っております。これもやはり雪舟が大分に、豊後にあって、すばらしい実作をなさったということとこれは関係があるのではないか。関係がないとしても、私どもは現在関係があるように位置づけたいというふうに思っております。福田平八郎先生にしましても、天開図画楼のすぐ真下、高山辰雄先生もすぐ近くの、そうですね。1,000mほど離れていないようなところにお生まれになっているわけでありまして。私どもの豊後には、そういう地域の芸術的な土壌というものを深く感じておる次第でございます。

そこで、これはまた私見になるかもしれませんが、日本、それから私どもの豊後、豊前というものを考えてみますときに、気候風土が非常に芸術思想、そういったものに決定的な影響を与えているということを目指したいわけです。私どもの西南地、暖かい地域というのは哲学的にすばらしい人物とか、あるいは宗教的な大先達とか、そういった思想や思索の部門には余り人が出ないような特性を持っており、人間的な特性があるんじゃないかというふうには私は前々から考えております。東北とか関東とか、ヨーロッパでもそうありますが、北の方の人間の方がそういう哲学とか宗教とか芸術思想とか、そういったものにのめり込んでいくというか、そういう人間的、人文的な特性があるように考えますと。しかし、西南暖地、南の方は、一方では行動面といいますか、つまり手を使う、絵もそうですし、彫刻もそうですけども、手や指や足や身体を使う。あるいはのどを使う、声楽でございます。音楽もそうですが、楽器などの道具を使った活動、何か具体的な媒体を伴う手法を中心にした即物的な芸術活動の追及といいますか、それを突き詰めていくという人間的な特性が西南暖地にはあるというふうには考えております。そういう面からしましても、私どもの豊前、豊後、九州には彫刻家の朝倉文夫だとか、先ほど申し上げた田能村竹田の南画、そういう手や声を使う芸術家が非常に多数出ており、しかも優れた仕事をしているのです。

そこで、私どもの大分市立美術館ですが、高山辰雄先生を建設委員会の委員長にお願いして、いろいろと検討していただきましたが、やはり豊後南画の傾向の作品を美術館のバックボーンにして作品の収集をやっていこうというふうに位置づけておるところであります。その豊後南画が、田能村竹田の方の一つの頂点として雪舟が位置づけられるのではないかとことをしみじみと感じておるところであります。誠にありがたいことであると思っております。豊後での雪舟の数年間というものが今日脈々と生きている、また将来に向けても生かしていかなければならないということ強く感じておるところなのでございます。

議長

次は、大野町さん、お願いをいたします。(拍手)

三浦寛喜(大野町長)

おはようございます。昨日からたいへんありがたい有意義な会を持っていただいて感謝しています。とりわけ雪舟さんが日本はおろか世界を股にかけて芸術にいそしんだ方であるということがひしひしと分かってまいるとはありがたいまして、特に私共の町に足を運んできて沈墮の滝を描いていただいた誠に誇りうることで、ありがたく思っているわけであります。

こういうふうな昨日、町の内容を申し上げましたが、農業と観光というものをセットにした地域開発を考えているところです。とりわけ、この沈墮の滝に対しましては観光開発に力を入れてきています。地元の皆さん方もそういったことに意欲を燃やし、あるいは文化財関係に興味をもっていらっしゃる他市町村の方々も地域のマスコミ等にも意見をたびたび出しておられ関心が高まっています。地元といたしましてもダムに対し力を入れていきたいと考えておりますので、雪舟を核としたまちづくりという中で、特にそういった気運が高まってまいりまして、地元の人たちが沈墮の滝観光開発促進協議会をつくりましてこれを「滝んこ会」といいますが、滝んこ会を通じましてそれぞれが会費を出しましていろいろと皆で清掃したり、あるいは又、地域の遊歩道的なものを建設したり、地域の人と一緒になりましてその道路をきれいに整備していただけるという自発的な地域づくりをしていただいております。

町におきましても、そういったことに頼るだけでなく町自体での開発といったことで農村定住事業というものを導入いたしまして、ふるさと創生の1億円も導入しまして平成2年度であります。これに駐車場あるいは遊歩道あるいは将来はこういった面に取り組んで具体的な作業に入ろうとしているわけであります。また、旧発電所の石造建物やらそういうものを併せて開発したらということが九電さんとの話がまとまっていますので、できましたらこの地域に九電さんの方でミニ発電機を据えていただいて、滝の水を導入していただいてタービンをまわしていただいて発電機なるものを作っていただいて、その電気によって照明あるいはこれは伝説になるんであります。ふるさと創生のアイデアの中にあつたんですが、滝に竜が昇っている彫刻をいたしましてそれに九電さんに作っていただいた発電機なるもので竜の目が常に光輝いているといったことを思っているわけであります。九電さんからも町の方の計画ができれば一緒に考えていきたいと思いますという意欲的な姿勢をしめしていただいております。それからその写真にありますが滝には多くの大きな鯉が夏には群れをなしておることが見られますので、今度緋鯉等を入れまして魚の養殖や放流をやっていこうと考えております。

また、豊後国宇田枝の堀川大納言の一人娘の花御本が、自分のところに通い続けた男の狩衣にさした針の糸をたどっていくと姥獄明神の大蛇であったそうです。花御本はやがて子を生まれましたが、その子はたいそう勇猛な男子になったそうで、この者が豊後大神氏の

始祖惟基だということです。惟基の五代あとに生まれた子には背中に蛇の尾と鱗のかたちがあったと言われておりまして、この人が後の尾形（緒方）三郎惟栄これよし）で、九州中に知られた勇将になったという、こういう伝説が残っており地域の歌となり、また盆踊りとなっています。

このようにいたしまして、そういった地域の皆さんの沈墮の滝を愛する愛好会の皆さん、滝んこ会を中心としてしかも町中にそういう盆踊りが伝えられているということでございます。それから人材育成ということになるわけですが、地域の活性化のためには人材育成が大事であろうと思うわけですが、そういった意味で、その地域の活動家、実践家あるいはリーダー、そういったものが必要な時代だと思っておるわけですが。人づくりのために数年前から大野塾という塾をやっています。大野町自体の古きをたずねて新しきを知るという歴史的なものを中心にしながら、発展の様子など将来どうあるべきかということについても深く広く将来にまで及んで研修していただくということで塾を開いています。その中で、このような伝説的なことから、あるいはいろんな雪舟の文化のことにつきましても、広く専門の方々からお話を聞きながら学んでいこうというものです。そして、昔のいろいろの香りのする、その中にまた新しく近代的なまちづくりをすることで、若者を中心に頑張っているところでございます。大体以上が雪舟を核にしたまちづくりの概略でございます。

議長

ありがとうございました。

それでは、京都市上京区さん、お願いいたします。（拍手）

大阪三雄（京都市上京区長）

おはようございます。

昨日、いろいろなお話やビデオを見せていただきまして、雪舟さんに関する知識を深めることができました。私は、上京区長になる前は京都市立芸術大学で3年ほど事務局長をしておりましたので、芸術の世界から見ましても国際的な芸術家であると思います。私も幼少の時から名前を聞き、親しみを感じておりましたが、今は、それ以上に非常にすばらしい人だなあと実感いたしております。

今後、上京区として、雪舟さんをどのように取り扱っていくかにつきましては、正直申し上げてなかなか難かしゅうございまして、現在のところ、京都市の、いわゆる文化観光行政の中では、雪舟さんをもとに何か事業を起こすというような予定はありませんので、この場で何をお話しすればよいかと考えまして、さしずめ京都市の文化・観光の概要を少しお話しさせていただいて、これに代えさせていただきたいと思っております。

京都市の観光の状況であります。観光客は年間約4,000万人を少し切れませんが、3,800万人の方に来ていただいております。非常にありがたいことでもあります。そのうち外国人の方はといいますと、日常的には多く見るんですけども、観光客数でいきますと38万人ありまして、もう少し増やしていかなければならないなと思っております。

す。それと修学旅行生では、昨年度で123万人ということでありました。

観光事業からいいますと、今までは持っているエネルギーと蓄積された資産といいますが、名所旧跡や祇園祭り等の既存行事の上で何となく安心して事業を行っていても観光客は一定数来てくれたわけですが、これからの時代は工夫をしなければ、観光客は離れていくだろうということで、観光事業にも少しの工夫をするようになっております。それでは、どのような形で観光事業を行っているかについて、説明いたしますと、観光事業は大きく分けまして「観光客の受け入れ対策」と「観光客の誘致対策」の二つの柱で事業を進めております。

観光客の受け入れ対策として行っておりますのは、旅館業者とか、土産物業者とか、あるいは料理飲食業者などの観光関係者に対する研修・指導と言ったものや観光施設にあります案内板などの観光標識の整備といったもの、あるいは、嵐山などの景勝地の維持・保全としまして、苗木の無償配布や維持管理をはじめ、清掃活動などに取り組んでいただいている団体への助成などを行っております。

また、京都観光の現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿について議論を深める場としまして、学識者や実務経験者で「京都市観光文化振興懇談会」といった名称の組織をつくりまして、京都観光の活性化に向けての論議を行っております。

次に、観光事業の二つ目の柱として行っております「観光客の誘致対策」についての説明をいたしますと、誘致宣伝活動としまして、京都市観光協会や京都商工会議所などによって「京都観光客誘致対策協議会」といった名称の組織をつくりまして、全国各地に出向き、修学旅行担当の先生や旅行業者に対しまして、宣伝活動を行っております。また、観光キャラバン隊というものをつくっております、全国各地へ宣伝に行っております。実は今年の1月14日・15日に岡山市と広島市の方へ参っておったようであります。

また、修学旅行生に対しまして、座禅を経験したり、法話を聞いたり、お茶の作法を体験したりといった、体験学習事業として、「伝統芸能コース」と「修養コース」という2コースに分けて京都の良さを知っていただく事業も行っております。また、観光客の少ない夏あるいは冬といったオフシーズンの対策といたしましては、「京の夏の旅」と「京の冬の旅」を実施しております。

このような形で観光事業を実施いたしておりますが、いずれにいたしましても、現在、京都が行っている観光事業は、既に持っている観光資源に少し工夫を加えた程度のものでありますから、今後はより積極的な観光事業を行っていかねばならないと考えております。いつまでものれんで飯が食えるといった時代ではない状況になりつつあります。

最後に、上京区としてどのような文化的な事業を行っているかといえば、管内には裏千家、表千家、武者小路千家といったお茶の三千家がそろっておりますので、それならということで年に2回、6月には表千家、11月には裏千家の先生方の協力を得て区民茶会を行っております。また、管内に住んでおられる茂山千五郎先生などが中心になって、年に一度、神社の境内で薪能を行っております。

以上が京都市あるいは上京区の観光及び文化事業の状況であります。

議長

ありがとうございました。

それでは、益田市さん、お願いいたします。(拍手)

神 治一郎(益田市長)

昨日も申し上げましたように、私の方は、産業文化都市を目指しております。したがって、その文化というサイドからみますと、柿本人麿、人麿さんですが、それと雪舟等揚の雪舟さん、この2つを歴史・文化としては顕彰していくということでございます。

雪舟さんを中心にいたしました歴史・文化ゾーンということで、ふるさとづくり特別対策事業、これは平成元年度から3カ年ということでありますが、「雪舟山水郷」こういう位置づけをしております。“山、水、郷”ですね、「雪舟山水郷」こういうことにいたしております。その一環として、ふるさと創生1億円で、雪舟の描かれた益田兼光肖像図、これは国指定重要文化財でございます。これを購入したということでございます。加えて私の方は医光寺、万福寺の雪舟庭園でございます。大喜庵や昨日お話しした東光寺でございますが、そこが雪舟の終えんの地でございます。その隣が今申し上げた「雪舟山水郷」の区域になる訳でございますから、雪舟の郷記念館を建設をするということにいたしました。約3億6,000万円かけているというものです。建物、土地と一緒にあります。

「雪舟山水郷」といいますのは、その記念館、大喜庵、それと雪舟さんの墓ですけども、さらにその南側に、山陰では一番規模の大きいといわれております小丸山という古墳がございますが、その古墳まで取り込んだ歴史・文化ゾーンを仕上げていきたいと、こういうことで事業に取り組んでいきたいと今思っております。

そのような事業を行う契機になりましたのは、特に、民間サイドにおきまして、雪舟さんに非常に親しみを持つものですから、その遺徳を偲びながら偉業をたたえ、何かそれにまつわることをやりたいということで、第3次の雪舟顕彰会といえますものを昭和55年に発足をさせた訳ですが、今10年になります。ちょうど昭和55年の段階で雪舟さんが亡くなられて475回忌、その年でございましたので、475回忌の法要を営みますと同時に、「雪舟」という本をつくったり、あるいは雪舟さんの関連する、その描かれたいろいろな複製品その他の展示会を行う。そういうことをスタートにいたしました訳でございます。例年「雪舟忌」、これは俳句の世界では5月3日になっておりますので、5月3日に「雪舟忌」を行うという扱いにして今日までできております。その際には、特に、幼稚園とか、あるいは保育園の園児に絵を描かせてみせました。絵画の好きな子供たちに絵を描かせて、それにいろいろとお話を聞くというようなことを行っております。それから、小学校の高学年等を中心にして、顕彰会の役員の方々と、校長先生との話し合いで、子供たちの夏休みとか、そういう時期に雪舟講座というものを開いてもらったりしております。そういう雪舟顕彰会を昭和55年に発足させたものですから、それが非常に市民の皆さん方に雪舟さんに関しての認識とご理解をいただいている。こういうふうに思っ

ております。

いま一つは、やはり雪舟というものをメインにいたしまして中国の寧波市との、いわゆる文化といいますか、友好親善交流をしております。

昭和63年度に第1回の寧波市への訪中団が私どもの方から寧波市に派遣しまして、今回で都合3回寧波市を訪問いたしております。その際に、皆さんには天童寺で雪舟さんが修行された訳ですから、天童寺へも足を運んでいただいているというような形のそういう交流をしております。そういうような中で、本年6月には寧波市の方から農業視察団が私どもの市に約3日間位、いろいろと勉強のために滞在してくれました。と同時にその次には雪舟の郷記念館、このオープンがちょうど10月6日に行われた訳ですが、ぜひとも天童寺からもお越しをいただきたい。寧波市からもお越しをいただきたいということで、ご招待申し上げました。そのようなことで竣工式にお見えをいただきました。寧波市の団長さん、こちらでいえば教育大臣でございますが、そういう、中国の賓客もお越しをいただいたところですよ。それから、天童寺の方丈さんでございますが、この方は天童寺の一番偉い方でして中国全体の仏教会の副会長、お名前は、明暘大師でございますが、その明暘大師にお越しをいただきました。こうすることで、本当にこれは雪舟さんのゆかりが御縁うれしく、今からさらに一層交流を深めていきたい、こう思っております。

もう一点、特徴的なことはこの雪舟の郷記念館の庭に、これは民間のご寄贈をいただいているわけですが、雪舟禅師の銅像を建立いたしました。あわせて除幕式を行った訳ですけれども、その雪舟禅師の銅像の台座の字は、今申し上げた天童寺の明暘大師が、揮毫されたもので、その銅像の向いている方向はやはり寧波市あるいは天童寺と雪舟・益田というものを考えて、天童寺の方向、中国の寧波市の方向に向けて建立をすると、こういうようなことをいたしました。一つの国際交流ということの雪舟さんのつながりで寧波市と一層深いつながりをもちたいと思っております。

第1回目の雪舟サミットになった大変喜んでおります。そういうことをしておりますので、雪舟サミットの構成メンバーも天童寺にまたゆかりを深めていけることができれば、私は大変結構なことじゃないのかなと、こういうふうにしておるところでございます。

簡単ですけれども、そういうようなことで、歴史文化の里づくりということ、これが“雪舟の里”と“人麿の里”、この2つを柱にして歴史、教育、文化の振興を図ってまいりたいと、こう思っているところでございます。

議長

それでは、山口さん、お願いいたします。(拍手)

佐内正治(山口市長)

おはようございます。昨日からたいへん勉強させていただきありがとうございます。

今日は、雪舟を核としたまちづくり、人づくりについてということでございますが、私どもの市、山口市については、昨日その概要をお話ししましたが、雪舟との関わりは大内氏との関係ということになります。大内文化の中での雪舟ということになります、本市



にございます国宝の五重塔、それと昨日のお話にありました雪舟庭、これがその最たるものです。このいずれにいたしましても、山口の観光の目玉で、観光客が、次々に山口に来られた方が必ずここを見においでになる。さらに、その右側にKDDのパラボラアンテナがございまして、今既に10基以上のアンテナがあります。そういった近代的な最先端を行くものも一つの観光の目玉になっておるようなわけございまして、そういった大内文化の時代の古い文化遺産と、それから新しいものとが非常に混在をしておると、こういうふうな状況でございます。したがって、今益田市さんがおっしゃいましたように、その雪舟だけを核にしてのというのは山口市としては、今申し上げましたような背景上、一応大内文化を顕彰する中での雪舟についてということになるかと思えます。

そこで、本日は山口市の現状なり将来展望について簡単に御報告を申し上げたいと思っております。

昨日も申し上げましたけれども、山口市では平成元年に、来るべき21世紀を展望した長期プランを策定をしております。この大きな目標としては、躍動する中核都市の形成を掲げておるところでございます。

御案内のとおり山口県は、地形的あるいは歴史的な経緯が、御当地の岡山県やほかの県と異なりまして、県のへそというような中核都市がございません。瀬戸内海沿岸に中小都市が散在をしているという状況でございます。しかもこれらの諸都市の産業構造を見ますと、基礎素材型工業に特化しております。今日指摘されておりますような経済のソフト化あるいはサービス化に対応できない状況でございます。このため、県下では人口問題、特に若者の他県流出が多くなっているところでございます。

こういった背景のもとに、山口市では、市民福祉の向上をもとに広く県勢発展の核としてのまちづくりを進めたいというふうに考えておまして、こうしたまちづくりの核といたしましては、むしろ先ほど申し上げましたような、雪舟というものよりは今後発展が期待される情報通信関連産業の集積を核として進めたい、かように考えておるところでございます。その第1号といたしましては、山口市の中心市街地に民活法の指定によりますインテリジェントビルでございます「ニューメディアプラザ山口」を今年の5月に建設したところでございます。これはすべての情報ネットワークシステムの核となる、全県下の情報ネットワークの核となる施設でございます。将来的には、今考えておりますのは、この周辺に金融保険業等の業務機能を集積いたしましたコンプレックスゾーンの整備を進めたいと考えておるところでございます。一応20haぐらいを考えておるところでございますが、このコンプレックスゾーンとして整備をしまいたいと思っております。

一面こうした大規模な開発をいたしますと、ともするとミニ東京化いたしまして、地域の個性を喪失するおそれもございますが、四全総の指摘にもございますように、こうした産業振興策とともに、今申し上げましたような地域の歴史的認識に立った特色のあるまちづくりを同時に進める必要があると考えております。幸いにも先ほど申し上げましたように、山口市は約600年以上の歴史を有しておりますことから、市内には当時の権力者で

ございます大内氏の館跡や古い面影を残す町並みがございます。大内氏の館跡等につきましては文化庁の御協力をいただきながら調査を進めております。将来的にはこれを復元いたしまして、市民の学習の場や観光の場として活用いたしたいというふうに考えておりますし、また町並み保存につきましては、去る昭和63年3月に山口市都市景観条例を制定いたしまして重点地区を定めて景観の保全をしてまいりたいというふうに考えております。

また、山口県と言われますと、とかく政治家のイメージが強いわけでございますが、ゆかりの人物としては、本サミットのテーマでございます雪舟はもとよりでございますけれども、中原中也や嘉村 多、国木田独歩、種田山頭火などの文化人がおります。そういうことでございますが、文化面では特に市民学習の場、観光ネットワークの一環としてのこうした多くの歴史的、文化的な人物を研修する場づくりも進めてまいりたいということで今調査、研究を考えております。

次に、人づくりについて申し上げますと、まちづくりは人づくりにあると言われております。あすを担う多彩な人材を育成をしていくことは地域発展を図る意味で重要な課題でございます。私どもといたしましても真剣に取り組んでおるところでございます。

ただいまのところ、山口市ではこうした認識から、ふるさと創生資金の一部を活用いたしまして、平成元年に芸術文化振興基金を創設いたしました。これは官・民と一体となりまして総額2億円を目標といたしております。市民の重要な芸術、文化活動を資金面で援助しようというものでございます。

それから、今後市民の健康の維持増進や長寿化、高齢化への到来に備えまして、スポーツ振興基金の創設も検討いたしております。

それから、国際交流基金につきましては既に創設をいたしております。

そのほかに、現在山口市を始め近隣1市6町の広域市町村圏で、御案内のとおり自治省のふるさと市町村圏というのがございますが、これの指定を受けておりまして、10億円の基金を積み立てることになっておりますが、現在人材育成及び文化の振興の2つの問題に焦点を絞りまして計画づくりを進めておりまして、平成3年からその果実の運用によって人材の育成及び文化の振興を図っていくということにいたしておるところでございます。

まことにとりとめのない御報告になりましたけれども、以上のことで報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長

ありがとうございました。

時間が少のうございますので、休憩なしに続けさせていただいておりますが、御了承を願います。

本行節夫（総社市長）

それでは、私のところにつきまして御報告を申し上げます。

御承知のように、雪舟さんは私のところでお生まれになり幼少のころお寺へ入られたということ、それ以降はほとんどわからないといっているような感じではありますが、昨日の

お話を聞きまして非常に感激をし、また多いに勉強をさせていただいたと、こういうこと  
でございます。関心を持っておったことは事実でございます。

そこで、今回のサミットを契機としまして、偉大な先人をもっと顕彰したいというふう  
に考えております。市民に誇りを持っていただき総社市のイメージアップを図りたい。3  
年ぐらい前から雪舟について取り上げ始めてまいりました。63年11月には「雪舟の足  
跡展」と「雪舟講演会」を開催いたしました。そして、「雪舟のパンフレット」を作成。平  
成元年4月からは「雪舟の生涯」というのを広報紙に1年間連載をいたしました。この記  
事をお書きいただきましたのは、昨日パネラーとしてお見えになりました守安 先生で  
ございます。平成2年4月からは雪舟がかかわりました各地の史跡を1年間にわたりまして  
紹介をする予定でございます。そして、今日「雪舟サミット」。それに合わせまして、昨日  
ごらんいただきました「画聖雪舟の生涯」というビデオの制作、30分間でございますが、  
これを制作したところでございます。このほかに、今日ごらんいただきますが、雪舟誕生  
の地の跡がございまして、ちょうど周辺をほ場整備することにしておりまして、少しでも  
ここの区域を広げたいということで話をいたしておりますので、多少今のものよりも広く  
なる、ほ場整備の中で生み出しまして広くしていきたい、こういうふうなことを思ってお  
ります。

今言いましたように、幼少のころだけでありますので、具体的な、益田市さんのような、  
そういうところまでいっておりません。これからひとつ大いに勉強もいたしまして頑張り  
たい、こう思っております。

今は雪舟についてでございますが、2つ目に人づくりということでございまして、先ほ  
ど山口市さんからありましたように、まちづくりは人づくりであるというふうにとらえま  
して、ふるさと創生事業の一つといたしまして、郷土理解学習としまして、小学校4年生  
以上中学3年までの約5,500人を市内にあります各学校区、それごとの自慢になると  
ころということを含めまして、遺跡や文化財を実地に勉強するために一日バスで見学をし  
ました。平成2年度は小学4年生のみでございました。

そして、2つ目に歴史副読本、郷土理解学習副読本としまして、「歴史と文化財」。昨日  
あそこへ陳列していたと思っておりますが、平易に記述した学校の先生方を中心に、編集し発刊  
したものでございますが、毎年1冊ずつ計5巻を発刊する予定でございます。今年は「歴  
史と文化財」であります。次回は「人物」に入ります。それから、「自然」というふうな  
ことで、子供から我が町を知ってもらい、そしてその中から愛郷の精神を養ってもらい、  
視野を広げてもらおう、ということで副読本の発刊に取り組んでおります。

それから3番目に、今申し上げたこととダブることになりますが、小・中学校区の文化  
財や遺跡などをそれぞれ5点を写真パネルにしまして展示をし、今学校を次々に巡回し、  
展示をしておるところでございます。

4つ目に、ふるさと創生仕掛人塾であります。各層から12名をより出しまして、こ  
こに出席しております岩佐助役を塾長にいたしまして、いろいろなことを仕掛ける人をつ

くっていこうということで、湯布院の方へもおじゃましたりなんかしておりますが、5か年間継続をして、何かアイデア、知恵を同時に、皆さん方をその気にしていただくような、そういうことをやっいていこう。やや時間がかかりますけれども、そういうことでございます。

それから、吉備のみちづくりということで、古墳や遺跡をめぐるルートづくりを整備しようということで、本年度ちょうどこの南側に三輪山というのがありますが、それから国分寺へ向けまして「歴史の道」、そこを通ることによって歴史がわかる、それに触れる、そういうふうなものをつくっていこうということで具体化することにしております。

さらには6つ目に、緑と花のまちづくり、ええとこ総社市民運動団体といっしょになりまして花いっぱいを展開しておるところであります。

7つ目に、村一番運動ということで、旧村が合併してできたところですから、17地域の各地域ごとに何か特色のある、他に誇れるものをつくり出した場合に200万円を限度に補助金を交付しましょうということで、いろいろと検討していただいております。平成元年度は1地域のみでありましたけれども、古い山城の跡へ桜を植えまして、地域の方の労力奉仕、そういうことで進めております。

そのほか、市内産品の紹介、展示即売会でありますとか、特産品の開発等につきましても振興を図っておるところでございます。

ただ、その他の地域振興としまして、昨日もちょっと申し上げましたけれども、4年制の岡山県立大学の立地が決定いたしましたして、先ほどおおむね用地の買収調印が完了いたしました。大学に入ります600m余りの道路につきましても近く測量に入ります。平成5年春の開学でございますが、私どもは、古代と21世紀を結ぶ風格ある文化創造都市、これを標榜しておるところでございます。その核にこれを据えたい、これに関連しているいろんなことを取り組んでいこう、こういうことでございます。

また、山陽自動車道の岡山総社インターというのが東の端の岡山市と総社市との境にできるわけであります。山陽自動車道と中国横断道との交わるところでございます。これから交通の拠点性が非常に高まってくるということでございまして、大いに期待もし協力しております。また、既存の、今あります180号の国道でございますが、これも市街地は避けるということで、バイパス工事につきましても建設を進めております。また、空港へ行きます道路もやや不十分でありますからこれらの整備。さらには中央文化筋と称しておりますが、この東側の南北の通りでございますが、総社市の場合は東西の道路はかなりあるんですけれども、南北の軸になるような道路が少のうございます。そこで、これを1本の軸といたしまして、その南側に運動公園、スポーツ公園ですが、町を外れました北に北公園というのを今造成中でございます。そして、町なかを中央文化筋といたしまして、これを長期構想でもって一つずつそれに具体的に据えていこうと、いわゆるへそといいいますか、顔というか、そういうことでこれをつくり上げていこう、こういうふうなことで取り組んでおるところでございます。

なお、井原線というのがございますが、伯備線を重用しまして、総社駅の一つの南の清音駅から広島県の神辺駅、この間に新線建設が再開いたしました。平成7年に開業でございます。これらを促進することや、総社ということを申しましたが、門前町の、いわゆる一番初めの総社の町というのが、非常に今の商業の発展とともにさびれております。これを全国で3か所の建設省モデル事業でございますが、多機能交流拠点整備事業ということで、新たな何かができないかということで、今委員会等をつくりまして御検討をいただいておりますが、平成2年度に計画を策定をしたい、こういうことで、古いものを踏まえながら新しいものに取り組んでいこう、こういうことでございます。昨日、今日お聞かせいただきました雪舟にかかわりますもの、そのみならず、いろいろとお話がありましたことをひとつ参考にいたしまして、相互に力を合わせながら皆さんとともに頑張っていきたいな、こんなことを思っております。

以上でございます。(拍手)

何か補足されるようなことがございましたら、お願いをいたします。

大阪三雄(京都市上京区長)

承天閣美術館のパンフレットと雪舟庭園の、京都の雪舟寺のパンフレットがございますが、1分だけ紹介させていただきます。

この承天閣美術館というのは、相国寺さんの中に6年ほど前につくられたものでありまして、来年「太平記」というNHKの大河ドラマのときに室町文化の展覧会を考えていると、お寺側のお話でございました。その中に雪舟の作品も展示したい。ぜひとも京都へ来られたらというお話でございます。

それから、ほかに雪舟さんと関係のあるところがないかなと思いろいろ調べますと、昨日ビデオで紹介いただきまして大変ありがとうございました。京都雪舟寺というのは、これは東福寺さんの中の塔頭、20ばかりあるんですが、その一つ芬陀院という、そこに開いていただきますと書いてありますんですが、いわゆる本山は東福寺で宝福寺さんとの関係があるわけであります。その中の芬陀院、これも宝福寺さんとの分類といたしますか、そういうことの関係と聞いております。中に、鶴亀の庭と、昨日益田市さんでしたが、立派な庭がございました。作は雪舟であります。そのほか東福寺の伽藍を描いてあるのはほんまもんの門であるということもございますが、雪舟寺として随分こういうことからして名前を言うておられるお寺も京都の中にあるということをつけ加えさせていただきます。

議長

ありがとうございます。

そのほかのところではございませんか。

御報告でありますので、何かお尋ね等がありましたら。

ないようでございますので、それではひとつ今後の交流のあり方について御検討をいただきたいと思います。

まず、私どもの方で考えておりますのは、第1回でありまして、今後これをどうやって

いくか、あるいは続けるとすれば持ち回りでいくかどうかというふうなこと、回数の問題もごさいますが、それらにつきまして御意見をいただければと思います。

神 治一郎（益田市長）

大変、第1回のこのサミットお世話になりまして、非常に雪舟ゆかりの各市町村のつながりを深めてくると、こういうことができている私には喜んでいただいております。また一方、市長さん始め皆さんの御苦勞のほどもよく実感させていただきまして感謝いたしておりますが、せっかくこういうサミットという格好ができましたので、私は継続をした方がいいのではないかと、こんな感じがいたします。

ただ、率直に申し上げて、雪舟サミットというこういう名称ではございますが、何かサミットというと我々だけの集まりみたいにとらわれがちですので、この名前で行くのか、あるいは別に何か名前でもつくるのか、平たく言えば、雪舟さんのゆかりでございますので、雪舟のきずなという意味で「雪舟の文化都市交流フォーラム」とかなんとか、そういうふうな形で、我々行政だけの問題じゃなくて、今後これを継続するとすれば、子供同士の交流であるとか、あるいはカルチャーセンターに通ってるおばさんらの交流であるとか、いろんなことが考えられると思います。幅広くそれぞれの住民がそれぞれの土地へまた訪れるような形に幅を広げた方が長続きするんじゃないかと思うのでございます。私はそういうような考えで、本当それぞれの地域の住民同士がそれぞれの関係都市の交流ができるような方向に持っていく、これを基調にしてはどうだろうか。そうすれば比較的継続できるんじゃないでしょうか。

それから、そういうこともそれぞれ今回のサミット会議を持たれるまで、それぞれの事務局の皆さん方がいろいろお話もされたように私どもも担当から聞いておりますので、皆さん方の御意向を十分踏まえながら今後取り組んでいったらと思っておりますが、おおむね年1回ぐらい考えてみてはどうでしょうか。ちょっと、私先走って物を言いまして恐縮でございます。

佐内正治（山口市長）

それは今益田市さんがおっしゃったように、今回余り立派にやられたから、サミットだけだとこの次は何をやったらいいだろうというような感じもありまして、またこういうパターンだけでは済まんと思うんです。だから、今おっしゃったように、いろいろ見方を変えるといいですか、視点を変えたやり方でないと続かない、行き詰まるんじゃないかというような感じがしますけど。

議長

お聞きのとおりでございますが、名称は別にしまして、継続してやるということについてはよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

議長

それで、なお年に1回、性格的には今益田の市長、山口の市長さんがおっしゃったよう

に、いわゆる首長会議というふうなことでなくて、民間、住民が参加できる、そういうものにしてはどうかと、この御趣旨についてはいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

議長

それでは、毎年1回、それから性格も多少和らげるといいますか、広げるというか、そういう方向でもっていく。持ち回りでやっていくと、こういうふうなことにまとめたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

議長

それではそのようにまとめさせていただきます。

そこで、持ち回りということですが、これらの経費の問題が当然出てまいります。経費につきましては、次回から参加者の負担金を徴収したらどうかというふうなことで、事務者段階での話も出ておるようでございますが、まず参加者の負担金を徴収することがどうかということについて御意見をいただきたいと思えます。

神 治一郎（益田市長）

結構ですが、次回からと言いますと大変申し訳ないんですが、本当今回こんなに立派にしてもらったものですから、我々は何も負担しないで申しわけないような気がするんですけど。

議長

それはもう前もっての話をしておりますので、これはひとつ今回は……。

神 治一郎（益田市長）

本当申しわけないような気がしてならんです。

事務局（総社市総務部次長中村琢磨）

お話し中ですが、実はせんだって事務者の担当者会議を開きまして、今回は別といたしまして、次回からはそれぞれの開催をされます団体にできるだけ御迷惑をかけないようにということで、金額を申しあげさせていただきます失礼なんですが、一応参加するその市では5万円程度の負担金を徴収したらどうなんだろう、それから、町、区につきましては3万円程度。それから、このほかに参加者1人につきまして5,000円程度の負担金を徴収したらどうだろうかというような案を出しておりますので、御検討いただきたいと思えます。

議長

ただいま具体的に事務局の案を示しましたが、これにつきまして何か御意見がございましょうか。よろしゅうございますか。

神 治一郎（益田市長）

事務局でそれぞれ御協議いただくことではございましょうから、事務局案で進めていただ

いたらどうでしょうか。

議長

それでは、事務局案で、次回からはそれぞれに負担金を徴収するというふうに決定をいたします。

それでは、次の開催地、次期開催地についてでございますが、次期開催地につきまして先日の事務担当者会議で益田市さんに御希望があるやに承っております。他に御希望がないようございましたら、次期開催地を益田市さんをお願いすることにしてよろしゅうございますか。(拍手)

ありがとうございました。

では、ひとつ次期は益田市さんをお願いいたします。

神 治一郎(益田市長)

お決めいただきましてありがとうございます。

皆さん方、おそろいでまたお越しを……。なかなかこのように立派にできないかもしれませんが、よろしゅうどうぞ。

長谷目源太(大分市助役)

今度のサミットの記録ですが、録音をとっておられるようですので、記録集にして是非配布していただきたいのですが。

議長

事務局。

事務局

今回のサミットの記録をいたしておりますので、後刻冊子ができましたら、お送りさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

神 治一郎(益田市長)

それからもう一つ、来年の時期はちょっと私の方で検討させていただきたいと思います。できるだけ早目に時期等決めて御連絡するように努めたいと思いますので、今日のところは御了解をお願いします。

議長

お聞きのとおりでございます。益田市さん、ひとつよろしくをお願いいたします。

それでは次に、その他の交流の方法につきまして何か案がありましたら、御発言を願います。何かありますか。

事務局

実は事務局の担当者会議の中でいろいろ話が出たんでございますが、6つばかりございます。

1つは、小・中学校の郷土学習の際に、どちらかただいま報告がございましたが、雪舟を加えていただくということ、それから小・中学校の修学旅行のときには行程の中に必ず



雪舟のゆかりの地を加えていただくように、ひとつお申し合わせをいただきたいなというような案が出ております。

それから、物産とか郷土芸能などの交流、あるいは住民の文化作品の交流展覧会、また、これは当市の市長が申しておるんですが、水墨画の収集をやって、その展覧会を持ち回りでやったらどうだろうかというようなこと。それから、一般公募によりますところの雪舟の史跡めぐりツアー、こういうことを考えてみたらどうだろうか。それからまた、益田市さんは寧波と友好関係を結ばれておられるようでございますが、中国の寧波や鎮江市、こういうところとのメンバーとの交流を進めたらどうだろうか、こういうことが考えられるわけございまして、これを全部やるというわけにはまいりません。当面こういうものをやろうではないかというようなことを決めていただければ幸いです、このように思います。

議長

ただいまお話がありましたようなことで、何か御意見、御提案がありましたらお願いをしたいと思えます。このまま次の会議までというんでなくて、何かこの際新たな発展はできんかどうかというふうなこともでき得ればと思うんでございますが、いかがでございましょうか。

今言いました中で、昨日私のところで備中神楽をやらせていただきました。益田市さんにも何か郷土芸能もあるやに伺いましたが、そういう芸能、物産、そういうものの交流はいけるのではないかな、こんな感じがしておりますし、それから小・中学校の子供の交流とかというようなことはいかがなもんかな、こんなことも考えられますし、何かいいお考えはありませんでしょうか。

神 治一郎（益田市長）

せっかくの機会でございますので、今二つ、後で指摘された、芸能とか物産についてですね、あれちょっと手がつけやすいですね。

それから、子供の交流というのは、いろいろさっきお話しの修学旅行とかなんかともあるので、それぞれ努力していくという方向に持っていく。この二つぐらいは本当やろうじゃないですか。せっかくのサミットというのに何をやったのかと言われないうちにも。そういう方向で、みんなが結局都市間交流をやっていくんだというようなことを決めた方が私はいいように思いますけど。

議長

初めでございますから、大上段にというわけにはいきませんが、やりやすいところから何か一つでも手をつけるというのがいいと思えますんで。

そのほかのところではいかがでございましょうか。

佐内正治（山口市長）

それとか、5番目の史跡めぐりツアーなんかも、これは旅行社に話しかければ簡単にできることじゃないでしょうか。

神 治一郎（益田市長）

本日、昨日で1回目のサミットがあったと。仮に1年後にまたやると。そういうことだけではいかんでしょから、関係の都市の担当者や事務局の連絡会議というのは継続をする形で残していただいて、随時必要に応じて事務局会議ぐらいを持っていただいてもいいんじゃないでしょうか。七夕さんみたいに1年目に会うだけじゃあなかなかできないのではないのでしょうか。さっきいろいろ具体的なことを進めようという提案があったんですけども、私はいいと思って賛成いたします。しかし、それもそのまま終わっちゃいますわね。だから具体的に、じゃあこれを進めるにはどのような方法をとればいいのか、いろいろ進め方があると思いますので、やっぱりそういうことも協議をするために事務局連絡会議はずっと継続をしていくというようなことぐらいはお決めいただいた方が私はいんじゃないかと思いますが。

議長

それでは、いろいろ御意見がございましたが、先ほどその他の交流ということで、その一つは小・中学校の郷土学習のときに雪舟を加えていただくことや、修学旅行のときにはその行程の中へ関係先をお加えいただくと、それを関係者へ要請していただく。まず一つは小・中学校の郷土学習と修学旅行、二つ目が物産や郷土芸能などの交流、三つ目が一般の公募による雪舟の史跡めぐりツアー、これは民間の観光業者等に呼びかければ可能ではないかと、こういうお声がございました。当面三つ、これを取り上げていくと。なおまた、事務局会議は残しておいて連絡協調をしていただくと、こういう取りまとめにさせていただいてよろしゅうございますか。ありがとうございました。

それでは、具体的なことにつきましては事務局の会議によりまして御協議を申し上げて決定をしたらと、このように思います。参加することに意義があるわけでありまして、ぜひひとつ御参加をいただきますようお願いを申し上げます。

それでは、お決めいただきました事項及び今回のサミットの趣旨を体しましてサミット宣言を採択いたしたいと存じます。

角井 寛（総社市議会議長）

ちょっと済みません。

ちょっとその前におたずねしたいと思うのですが、総社市という地名はどっから生まれたんですかと聞かれたときには、総社ということについてちょっと御説明願いたいんですけど。

議長

総社市というのは、今日市勢要覧を差し上げておるとは思いますが、大化の改新後でございますが、備前、備中、備後と吉備の国、それだけじゃありませんが、その中の備中の国324社を合祀いたしまして総社宮というものが置かれました。そこには国府がお置かれ、国分寺、同時に国分尼寺、そういうものも置かれたわけでございます。その総社宮の門前町として栄えましたのが、今の多機能交流拠点事業の対象になっております町筋でございます。

ます。それが昭和29年に合併をいたしまして、どこの名前を取るか、当時総社町でございました。周辺の村ばかりでございますが、そこでいろいろ協議をされまして総社市、すなわち備中の国の324社を合祀してできた総社宮の名前冠して決定をみたわけであり

ます。  
全国にやっぱり総社という地名がまだ残っておるのは20ぐらいあるようですけども、市名になっておるのは私のところ。よそには国分寺市だとかというのがございますが、そういう意味での総社、こういうことでございます。祭神まではよくわからないのですが。

茅野健二（総社市議会事務局長）

今のご神体は大国主体であります。

議長

もとは官寺であった。官社ですな、大国主命のようでございます。それをつけ加えさせていただきます。

それでは、お手元の資料の16ページをお開きいただきたいと思います。

この文案をごらんいただきたいと思います。サミット宣言は、この交流会議で御採択いただきますところから、文案の第1回雪舟サミット参加自治体の次へ「交流会議」とお加えいただきたいと思います。

ごらんいただければおわかりいただける文章でございますが、この宣言文のとおり採択することにいたしまして御異議ございませんか。

（「はい」という声あり）

司会

ありがとうございます。

それでは、雪舟サミット宣言を採択させていただきます。

宣言文をひとつ配付願います。

それでは、私が宣言文を朗読させていただきます。

恐れ入りますが、御起立をお願いいたします。

雪舟サミット宣言。

「日本の水墨画の基礎を築いた世界的な画聖雪舟は全国各地を行脚し、さらには中国まで渡って画家としての技術を磨き、数多くのすばらしい作品を残しました。特に幼少のころ、涙でネズミをかいたというエピソードは教科書でも紹介されるなど全国民に広く親しまれています。ここに「雪舟ゆかりの地」である自治体が相集い、相互の親善と友好を深めながら画聖雪舟を顕彰するとともに、それぞれの地域で展開されている個性のある独創的な施策について情報を交換し、新たな歴史をつくり出し、それぞれが独自のまちづくりを進めることを目的に、今後末長く交流事業を進めていくことを宣言します。平成2年10月26日。第1回雪舟サミット参加自治体交流会議。」

以上でございます。

司会

拍手を願います。(拍手)

ありがとうございました。御着席願います。

三浦寛喜(大野町長)

ちょっとお尋ねしますけども、今回は益田市さんにお世話になるわけでありましたが、総社市さんにはお世話になりました。これからの連絡等、事務局は年度末までおやりいただけるんでしょう。次回の方になるんでしょうか。

議長

事務局はどう考えとられますか。

事務局

私どもに御連絡いただきまして、益田市さんと御連絡を取りたいと思います。

三浦寛喜(大野町長)

ありがとうございました。

議長

お聞きのとおりでございますので、総社市でお世話をさせていただきます。

益田さんどうぞごあいさつを。

神 治一郎(益田市長)

それじゃあ改めて。

大変今回は本当に本行市長さん始め皆様にお世話になりまして、大変ありがとうございました。

今それぞれ御決定いただきましたように、次期開催地は当益田市でということでございます。皆様方を心からお越しいただきますことをお待ち申し上げておりますので、それぞれおそろいでぜひとも益田の地へお出かけを賜りたい、こう思っております。特に日本海の隣接市でありますだけに開催の時期については私どももなかでよう相談したいと思っておりますが、一応雪舟忌が俳句の方での歳時記では5月になっております。実際は9月じゃあないかというような説がありますんで、その辺はあわせて頭に置きながら、私どもの気候のいい時期を選んで、皆様方にはあらかじめ早く御連絡をさせてもらおうと、こう思っております。

今空港建設中でございますが、皆様方の土地柄から見ますと、来年はまだ空港に至りませんけれども、平成5年の空港開港ということになっております。したがって、皆様方のところでお越しになれば、新幹線等の場合は小郡駅におりていただきまして、小郡から山口線に入って行く。こういうこととなりますし、中国縦貫道等を御利用の場合は、東の方からですと、縦貫道の戸河内インターで国道191号へ乗りかえてもらう、こういうことがいいと思います。それから、西の方からですと、六日市インターで降りるか、あるいは山口インターから9号線を走っていただく、そちらになろうかと思っております。そういうので若干足の便が悪うございますので恐縮に存じますけれども、私どもも誠心誠意準備をし

て皆様方をお迎えするようにしたい、こう思っておるところでございます。とりわけ、今回大変立派にさせていただいたんで、私ども本当のところは心配をいたしておりますが、気持ちだけは負けないように努力をしようと、こう思っております。どうぞよろしく願い申し上げて、ごあいさつにさせていただきます。(拍手)

議長

以上で、第1回の雪舟サミット交流会議を終わらせていただきます。

昨日に引き続きまして、大変なスケジュールの中で、御意見発表なり御決定いただきましてありがとうございました。

単に雪舟さんのみならず、今御発表になりました相互の学ぶべきところ、これをひとつお互いに吸収したい。特に私どものところはそういうふうな感じでいっぱいでございます。どうぞひとつこれから仲間としておつき合いを末長くいただきますようお願いをいたしまして、この会議を閉じさせていただきます。どうも御協力ありがとうございました。(拍手)

司会

御熱心に御報告並びに御協議をいただきまして、ありがとうございました。

ここで、実は昨日の行事の中で、画聖雪舟の生涯というビデオを見ていただきましたが、これが皆さん方にお配りするのがようやく間に合いましたので、この場で各団体の方に1本ずつでございますがお渡しをしないと、かように思います。よろしく願いいたします。

司会

それでは、この雪舟サミットを閉じるに当たりまして、私どもの収入役でございます宮原から、ごあいさつを申し上げます。

宮原章泰(総社市収入役)

御紹介をいただきました収入役の宮原でございます。

閉会に当たりまして一言ごあいさつを申し上げます。

昨日、今日と2日間にわたりまして開催をいたしました第1回雪舟サミットは、御出席の皆さん方の大変な御協力をいただきまして所期の目的を達し、全日程を終えることができました大変ありがとうございました。心から厚く御礼を申し上げたいと思います。

今回のサミットは何分にも初めてのことでございましたので、会場その他万般にわたりまして、数多くの不行き届きの点もあったかと思えますけれども、ひとつどうかお許しをいただきたいと思えます。どうか、この第1回雪舟サミットを契機にいたしまして、本日御決定をいただきましたように、雪舟さんを通じまして、関係団体、そして市民の皆さん方の各般にわたります交流がより深められるようお願いを申し上げたいと思えます。

最後に、御出席をいただきました皆さん方がいつまでも御健勝で、それぞれの地域おこしのためにさらに御活躍をいただきますようお願いを申し上げ、簡単でございますが、閉会のごあいさつにさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

司会

大変御協力ありがとうございました。